

令和 3 年度 さいたま市立尾間木中学校 自己評価書

校長 野平 尚彦 印

1 学校で設定した「令和 3 年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 学年・学級経営の充実や生徒会活動等の生徒の自発的な活動により、生徒一人ひとりの自主性、実践的な態度を育成する。
—学年・学級経営、生徒会活動
- (2) 教科会や研修会などにより、高い指導技術を備えた教員の指導によって、生徒の確かな学力の向上を図り、学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力を身に付ける。
—基礎的・基本的な学力の定着、校内研修
- (3) 道徳教育や特別活動を中心に心の教育を充実させ、生徒の人権感覚や意識の高揚を図り、思いやりの心を育てることで、いじめをしない、させない、許さない生徒を育成する。
—心の教育の充実、道徳教育、特別活動、人権教育
- (4) 積極的な生徒指導を推進させ、問題行動の未然防止を図るとともに、教育相談体制の確立や特別支援教育の充実により、生徒一人ひとりに対する指導とケアを確実に行う。
—積極的な生徒指導の推進と教育相談、特別支援教育の充実
- (5) 限られた時間の中で、授業やその準備に集中できる時間、専門性を高めるための時間、生徒と向き合う時間を確保するなど、業務改善計画を実践する。
—学校の業務改善の状況

2 評価結果について

- (1) 学年・学級経営、生徒会活動
- ・生徒の実態を踏まえ、組織的、意図的・計画的な教育活動を行い、生徒一人ひとりの自主的、実践的な態度の育成に努めたと肯定的に回答した教職員が 82%であった。今後も学年、学級経営の充実、生徒会活動の活性化に取り組んでいく。(昨年度 91%)
- (2) 基礎的・基本的な学力の定着、校内研修
- ・確かな学力の定着を図るため、各教科における、基礎、基本を明確にし、学ぶ意欲をもたせ、授業の在り方の工夫・改善に努めたと肯定的に回答している教職員が 90%であった。昨年度の課題であった、教科会を通して教員相互が指導技術を学び合える機能の構築に努めたかという設問に対して、「できていない」「わからない」と回答は 7%となり、昨年度の値より向上し、教科会や校内研修による成果だと考えられる。(昨年度 91%)
- (3) 心の教育の充実、道徳教育、人権教育、特別活動
- ・道徳教育と特別活動の充実により、人権意識の高揚を図り思いやりの心を育てることでいじめを許さない生徒の育成に努めたと肯定的に回答している教職員が 93%であった。こちらも昨年度の 79%よりも大きく向上しており、引き続き心の教育の充実に取り組んでいく。
- (4) 積極的な生徒指導の推進と教育相談、特別支援教育の充実
- ・生徒会活動を中心として、生徒自らが安心して学べる学校生活を考え実践できるよう自主的、自律的な生徒の育成を図ることに努めたと肯定的に回答している教職員が 93%であり、昨年度の値よりも向上しており、引き続き、生徒一人ひとりに対する指導とケアを確実に行っていく。(昨年度 84%)
- (5) 学校の業務改善
- ・4月から12月まで、全教員の1か月の勤務時間外の平均在校時間は37.6時間であった。しかし、平均が45時間を超える教員もおり、来年度以降もさらなる業務改善を推進していく。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・教職員の研修については、各教科等における「よい授業を行うための授業力の向上～主体的・対話的で深い学びを推進する実践力の育成」を目標とした実践的な取組を継続する。また、GIGA スクール構想の加速に伴う、来年度配備されるタブレットの効果的な活用を検討し、校内研修を利用するなどして、全教職員で積極的に授業に取り入れていく。